

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和8年度 第1回入間市障害者福祉審議会
開 催 日 時	令和8年5月7日(木) 午後3時00分 開会 / 午後4時30分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟5階 501会議室
議 長 氏 名	今井 英雄
出席委員(者)氏名	今井 英雄 荻野 亨 黒古 次男 磯田 英穂 田邊 仁 川野 志保 森田 秀子 岡内 藤雄 田中 智子 金平 里美 西尾 敦子 富田 千代 横田 修 粕谷 浩史
欠席委員(者)氏名	岩崎 雅美
説明者の職氏名	障害者支援課 副主幹 市村 正子
会 議 次 第 (公開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 委員自己紹介 5 事務局職員自己紹介 6 諮問 7 議題 (1) 次期障がい者福祉プランについて (アンケート結果、部会進捗状況等の報告) 8 その他 9 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	1 令和8年度 第1回入間市障害者福祉審議会 次第 2 入間市障害者福祉審議会委員名簿 3 事務局職員名簿 4 入間市障がい者福祉に関するアンケート調査報告書 5 各部会会議報告書 (地域部会【第1・2・3回】、こども部会【第1・2回】、 啓発部会【第1・2・3回】) 6 入間市障がい者福祉プラン サブタイトル一覧表
事務局職員職氏名	福祉部長 栗原 康友 福祉部次長 小笠原 昌平 障害者支援課長 下村 佳司 副主幹 市村 正子 副主幹 木戸 里江 主任 宇野 里実
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過)

- 諮問
入間市障害者計画の策定について

- 議題
(1) 次期障がい者福祉プランについて
アンケート結果について事務局より説明。

次期障がい者福祉プランについての部会報告の進捗状況について
地域部会について（黒古委員）
こども部会について（磯田委員）
啓発部会について（田邊委員）

- その他
サブタイトルについて
次回の会議について
（事務局より説明）

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
議長	(委員より発言が行われた部分のみ記述する) 次第7議題、「次期障がい者福祉プランについて(アンケート結果について)」に入る。事務局から説明願う。
障害者支援課副主幹	(「次期障がい者福祉プランについて(アンケート結果)」について説明)
議長	これに対し何か意見はあるか。
岡内委員	『電車でジロジロ見られた』『職場で怒鳴られた』などの話を聞く事があるが、制度面は話し合いや改正で可能だが、一人一人の接し方・態度の改善は難しい。効果的な啓発方法を検討してもらいたい。
議長	これに対し事務局の意見は。
障害者支援課副主幹	いただいた意見について、協議、検討し、啓発に努めたい。
議長	次期障がい者福祉プランについての部会報告の進捗状況について、各部会より報告をお願いしたい。
黒古委員	地域部会第3回会議では、就労支援センターりぼんから障がい者雇用および就労支援の現状について説明を受けた。また、地域部会対象の施策について議論した。 就労支援センターりぼんの説明では、法定雇用率の引き上げにより障がい者雇用の必要性が高まっている一方、多くの企業や教育委員会において法定雇用率の達成が課題となっている現状が報告された。また、精神障がいのある方の就労希望者が増加しており、就労後の定着支援の重要性が高まるとともに、支援現場の負担増加が課題として挙げられ、「医療モデル」から「社会モデル」への転換を進め、地域で共に暮らす「共生社会」の実現を目指す方向性を確認した。 障がいのある方が地域で安心して暮らし続けるための支援体制について意見交換を行った。委員からは、地域生活拠点事業の機能強化や「親亡き後」を見据えた支援の充実が必要との意見が出された。また、相談窓口の周知不足や利用しやすい相談環境の整備が課題として挙げられ、複雑化・多様化するニーズに対応するため、重層的な相談支援体制の構築が求められた。
磯田委員	子ども部会については、第2回会議を3月6日に開催した。会議では、現場での状況や今年度の実績報告をもとに実態把握を行い、本プランに盛

発 言 者	発 言 内 容
田邊委員	り込む内容について検討した。協議の中では、本人や保護者を含めた平等な関係性のもとで検討会が行われることが望ましいことや、保護者支援の視点を取り入れていく必要性について意見交換を行い、方向性を確認した。その後、具体的な施策について協議を行い、施策 5「障がい児相談支援の実施」・施策 7「子どもの育ちをみんなで一緒に支えていける支援体制の充実を図る」・施策 8「一人ひとりが違うことの素晴らしさを共に学ぶ保育・教育・福祉に取り組む」を中心に整理を進めた。なお、内容についてはまだ最終確定には至っておらず、今後も修正を加えながら、次回以降に最終案として取りまとめていく予定である。 啓発部会は 1 月・3 月・4 月の 3 回開催され、現行プランの評価や課題整理を踏まえた最終的な方向性を確認した。施策や主な取組は基本的に現行内容を継続する方針としつつ、重点課題 7「障がい者スポーツ、文化活動等への支援」・重点課題 8「移動等の円滑化の促進」については名称変更に伴い、新たな施策追加の検討が必要とされた。 会議では、プランを見やすく分かりやすい構成にすること、数値目標を設定して評価しやすくすることが重要との意見が出された。また、ボランティア活動を障がいの有無を問わず参加できる形で充実させることや、「社会参加の支援」をスポーツ・文化活動以外にも広げる必要性が示された。さらに、「バリアフリー推進」は公共施設だけでなく企業や店舗など民間分野にも取組を拡大するべきとの意見があった。加えて、「権利擁護」については、達成状況を確認できる目標や指標を明確化する必要があること、自立支援協議会から提出された要望書の内容も含めて事務局で今後のプランへ反映を検討することが確認された。
議長 横田委員	部会報告について何かあるか。 学校の福祉教育・総合学習では、入間市社会福祉協議会へ車いす体験や視覚障がい体験の依頼が多い。一方、知的障がいや自閉症への理解を深める体験学習は少ない。以前は、クレヨンの会という団体が自閉症の世界を演劇で伝える取組もあった。 知的障がいや自閉症のことを知らない子どもが多いため、学校で理解を深める体験の機会があるとよい。
岡内委員	車いす利用者や視覚障がい者への理解は以前より進んできたと感じる。一方で、今後の課題は『発達や認知機能の遅れのある人』への社会の理解である。こうした人々は真剣に向き合ってもらえないことが多く、一般の

発 言 者	発 言 内 容
黒古委員	人々の理解も十分ではない。そのため、今後はこの部分の改善が重要であると考えている。 教育の項目に『インクルーシブ保育・教育の充実』がある。先日の朝日新聞で、イタリアのインクルーシブ社会・教育についての記事が掲載されていた。記事では、パラリンピックの際に日本のパラアスリートが各学校に出向いて宣伝したが、イタリアでは障がいのある子も一緒に学校生活を送っており、そのような活動は不要であると紹介されていた。インクルーシブ社会はインクルーシブ教育から始まり、日常生活を共に学ぶことで特別に取り上げる必要はない、という趣旨である。日本では、通常学級を希望する場合、合理的配慮をして可能な限り認めることになっているが、実際には難しいこともある。合理的配慮のもとで共に学ぶことが、福祉保育・教育の本質であると考えている。
粕谷委員	自立支援協議会では、福祉審議会に意見を提出している。その案を作る際、当事者団体の話を聞いているが、どの団体でも共通して出てくるのは『小さい頃から交流があることが大事』という意見である。子どもの頃から『こういう人たちがいる』と自然に知ることが重要である。また、自閉症の体験については、現在はVRを使って感覚を疑似体験できる技術や、NHKの子ども向け番組で自閉症の特性を伝える内容もある。こうした技術やメディアを活用し、障がいのある人への理解を深めていくことが今後非常に重要である。
磯田委員	朝日新聞の記事を書かれた方から聞いた話を共有する。アメリカでは何十年か前、特別支援学校が半分以上に減った。理由は、別々に学校を維持するより、地域の公立学校に教員を配置して一緒に学ぶ方が効率的だったため。重度の障がいがある子どものために支援学校は残された。この背景には『地域で一緒に過ごすことが大事』という国民的意識があった。アメリカだけでなく、ドイツやイギリスでも同様の流れがあり、イタリアではインクルーシブ教育が進んでいる。日本で同じことを実施するには、県立・市立学校の壁など制度上の課題が多く、入間市でも特区のような形での実現は難しい。
議長	これらの意見を福祉プランにどう活かすか、事務局で検討してほしい。障がい者への偏見については、子どもへの教育も重要だが、親への教育も必要である。
黒古委員	日本でも欧米的な価値観の教育を実施している例として、大阪府豊中市

発 言 者	発 言 内 容
岡内委員 次長 障害者支援課副 主幹	がある。制度上の壁があってもできることはあり、普通学級から必要な時に特別支援学級に行ける体制が必要である。 自由記述欄に書かれた内容はどこで汲み上げられるのか。 問題は一つの部署だけでは解決できない。市役所だけでなく、企業などでも障がいのある方が差別的な経験をしている現実がある。入間市として、十分に進められていない部分について、障がい者差別解消や合理的配慮を多くの人に知ってもらう必要がある。子どもだけでなく大人への啓発も重要。方法として、ホームページや広報誌での特集や、さまざまな機会を通じた取組が考えられる。社会福祉協議会の法人後見など関係機関と連携しながら進めることも大切である。 いただいた意見を踏まえ、市として今後の取組やプランへの反映について事務局で検討したい。 その他 ・障がい者福祉プランサブタイトルについては、10月の第4回審議会でご意見をいただきたいと考えている。 次回 7月14日（火）午後3時～ B棟4階 大会議室

発 言 者	発 言 内 容
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和 8 年 6 月 3 日 議 長 の 署 名 <u>今井英雄</u> 議長が指名した者の署名 <u>萩野 亨</u>	